



第九十一号

## 対談「深海さとみ×奥田雅楽之一（下）」

メルマガnoichi91号。平成三十年結びの二カ月は特集号とし、対談『深海さとみ×奥田雅楽之一』をお届けします。  
後半は、教授者としても第一線で活躍して来られた先生の指導方法などをお聞きしています！

**奥田雅楽之(以下、雅楽之)**…少し話が前後しますが、先生がお稽古場を開かれたのはいつ頃からですか。

**深海さとみ(以下、深海)**…卒業する前、学部を出て大学院の頃に稽古場を作ってポツポツ教え始めていました。院を卒業した時に(宮城)喜代子先生のお稽古を四、五年間かせていただきながら修行して、やがて代稽古しいいよと言われて先生の代稽古をさせていただいて、十年くらい宮城記念館に通わせていただきました。結婚して子供ができたので、それは終わりました。

**雅楽之**…ご自身の稽古場とは、今と同じ「深海邦楽会」ですか。

**深海**…いえ、その時は「深海会」でした。

**雅楽之**…先生が本部で代稽古をなさっていたことは、存じ上げませんでした。

**深海**…素晴らしい経験をさせていただきました。

**雅楽之**…ご宗家の代理となりますと、責任がありますね。

**深海**…そうなんです。いかにしてお弟子さんがご宗家の前でちゃんと弾けるようになるか。そのためにどうしたらいいかを考えましたね。

**雅楽之**…そうでしたか。

**深海**…私、実は教えるのがすごい好きなんです。祖母が朝から夜までずっと教えていましたので、学校から帰ってもご飯がないから、ずっと聞いて待ってたんです。そこで寝たり、勉強したりしながらずっと聞いてたんです。その時に、祖母が教えてもお弟子さんが出来ない場所があるんです。そこはああしたら出来るのにな、ちよつと指をつければいいのにな…とか思うんですよ。稽古が終わると下に降りて行くので、私一緒に付いて行って教えるの(笑)

**雅楽之**…(笑)

**深海**…生意気な小学生でしたね(笑)

**雅楽之**…やはり見る、聞くというのは勉強になりますね。それに、いざ自分が先生の前に座る時は緊張して、客観性が

ないんですよ。人のお稽古を見て聞くことは、本当に勉強になります。

**深海**…そうですね。それで教えるのも全然苦じゃないし、喜代子先生のレッスンも真横でずっと聞いてました。

**雅楽之**…代稽古を十年なさって、お子様が生まれるということで区切りを付けられたということですが、藝大の非常勤講師になられるのはいつくらいですか。

**深海**…四十か四十一の時ですね。子どもが二人とも生まれた後です。

**雅楽之**…そのようにして新たに教える場所を持たれるわけですね。学校での指導というのはいかがですか。

**深海**…国の費用でやっているので、こちらも責任がありますね。

**雅楽之**…以来、長く藝大に携われることになりますね。こ

自分の稽古場でお弟子さんに教えるのと、学校で生徒さんに教えることに違いはありますか。

**深海**…学校は若いですよ。例えば、ご宗家の所に来る生徒さんはお年の方も多いので、合わせて一歩一歩上達していくように教えます。受験生や学校ではやるのが決まってるから、目先の目標に向けて何が何でも持っていけないといけないのが違いますね。

**雅楽之**…そうですね、次々とノルマをクリアしていかないといけませんからね。そうになると、学校ではより厳しくなるということもあるんですか。

**深海**…より厳しいです。もう何倍も厳しいですね(笑)

**雅楽之**…何倍も！

**深海**…昔は「鬼の深海」と言われてました。

**雅楽之**…今は違うんですか(笑)

**深海**…今は仏ですね(笑)ただ学校では厳しくしないといけない場面が多いですね。それは受験生に対しても同じです。ただ、最近は言い過ぎるのもどうなのかなと思います。いつも教える時にこれはどうかかなと思うことはありますね。

**雅楽之**…それは在学生、受験生に関わらずですか。

**深海**…そうですね。言いたい事が十あるとするじゃないですか。それを十全部言うのがいいのかどうか。

**雅楽之**…その人が全て呑み込めるかということですか。

**深海**…はい。私は今まで十を言って、その人が五しかできなくてもいいと思ってきたんです。いつか残りの五はわかってくればいいと思ってきましたけど…五を言えばいいのかなと思ったり。そのうち五わかるかもしれないし、三わかるのかもしれない。だから言い過ぎるのもどうなのかなというつも思いますね。

**雅楽之**…それは未だにですか。

**深海**…未だにどこまで言うか迷いますね。あと技術だけではなく、精神面や持って行き方とか、姿勢、向かい方というのも指導するんですけど、それも言い過ぎかなど。第一、自





分で悟るべきことですよね。

**雅楽之一**…そうですね。

**深海**…喜代子先生から言われなかったですもの。「おかしいな」くらいで細かくは言われなかったです。自分で勉強して自分でやって先生が言ってることはこうなのかなと考えて次に持つていくじゃないですか。私言っちゃうんですよ。こはこうして弾けばいいとか。

**雅楽之一**…生徒さんの性格によって同じことを言っても合う合わないというのはいませんか。それとも相手が誰であつても先生のスタンスは変わらないですか。

**深海**…ある程度は変わらないですね。それでだいたいわかって慣れるというんですかね。



**雅楽之一**…褒めて伸びるとか、叱つて伸びるといふのは関係ないですか。

**深海**…考えないです。良いものはちょっと褒めます。前より良いものは良いと言います。でもその次をさらに言います。

**雅楽之一**…それはお祖母様とか喜代子先生、数江先生、上木先生、小橋先生とか、師匠の御名前が出てきましたけど、習つてこられた御経験から、先生の指導法が生まれてるんでしょうか。

**深海**…そうですね。ただ昔と今は違いますよね。

**雅楽之一**…具体的に何が違いますか。

**深海**…昔は一回の稽古で少しずつしか進まなかったですけど、今は一曲全部やるのが目標になってますよね。全部譜読ましてくるということですよ。

**雅楽之一**…予習できる環境が整つてるといふことですよ。

**深海**…特に学生はそのためにいるんですから。勉強するのが仕事ですね。一に練習、二に練習。一日八時間弾きなさいっていう感じで言ってます。

**雅楽之一**…今回、私が先生にお話伺うにあたり、一番お聞きしたかったのは「教える」ことについてです。長年、一流の現場にいらした先生が教えるということにどのようなことをお感じになってきたのかを是非ともお聞きしたかったので、大変おもしろいお話を伺えて嬉しく存じます。

**深海**…いえいえ、私はまだわからないことが沢山です。

**雅楽之一**…話を交えまして、先生が好きな曲、大切にしている曲などありますか。

**深海**…やはり宮城曲(宮城道雄作品)と古典が基礎なので、宮城曲はいつでも何でも暗譜で弾けると思うし、教えることができるので、喜代子先生、数江先生からお習いしたことが入っているの、宮城曲は全部好きです。

**雅楽之一**…古典はご自身で手附(編曲)をなさつたりということもありますが、例えば、編曲する曲を選ぶ時に、特に思い入れが強い曲だったりなど、ないんですか。

**深海**…それは確かにあります。例えば《松竹梅》がありまして、箏・三弦・尺八でやるよりも、十七弦を入れて、リズム感を出した方が若い人におもしろいじゃないかと思つてもらえるようにしたいと思つて、十七弦を三パート入れた。手事ではリズムを聞かせたり。あとは《残月》とか唄が低いですよ。低いと女性の声が出ないんです。実は吉川英史は、高くしていいんじゃないかって言うから、じゃあ上げようと思つて、声明みたいに和声にしちゃおうと思つてできたのが《残月》の合唱なんです。そういう風にして色々な方のアドバイスとか自分で考えて曲を選んでます。

**雅楽之一**…そういった手附であつたり、御自身の作品の発表の場は、やはりリサイタルですか。

**深海**…そうですね。十年間やりました。「古典を現代に」と謳つて、必ず古典を新しく手附するというのをに入れてやりました。

**雅楽之一**…その十回、新しい試みを取り上げたということですか。

**深海**…そうですね。他には《五段砦》も箏の高・低じゃなくて、箏と十七弦にしたらどうなるかなと思つて、平調子も双調(G)を黄鐘(A)にして十七弦は相当テクニクはありますけど、これもおもしろいかなと思つてやってみました。ちょっとした閃きと、普段聞いたり教えたりする中でおもしろいかなと感じたものを考えました。

**雅楽之一**…専門的な話になつちやいますが、低調子を黄鐘にしたということは、高調子を十七弦に移したということですか。

**深海**…そうですね。雲井(調子)を十七弦にしたということですよ。

**雅楽之一**…平(調子)の黄鐘と十七弦を合わせるということですか。

**深海**…そうですね。

**雅楽之一**…斬新ですね。十七本、全部使えましたか。

**深海**…使いました。たまに雲井と同じ手弾きますけど、リズム弾いたり、原曲と全く同じではなくて、色々弾きます。でも低はそのまま古典を弾きます。

**雅楽之二**…なるほど！おもしろいですね。ウチは、初代家元も、祖父の唯是震一も、祖母の中島靖子も代々作品を残してきたので、再演しなければ意味がないという思いが強くあります。やはり再演することに、皆さんの好きな曲として認識されていくのかなとも思います。

**深海**…そうですね。

**雅楽之一**…せっかくなので、間近で先生の楽器を拝見させていただいてもよろしいでしょうか。(楽器の前に移動)

**雅楽之二**…この楽器に付いているのは何ですか。

**深海**…これは練習の時のガードです。爪が木に当たって傷つかないためのガードです。親指じゃなくて中指がついちやうんですよ。爪が長いんですかね。

**雅楽之一**…なるほど。

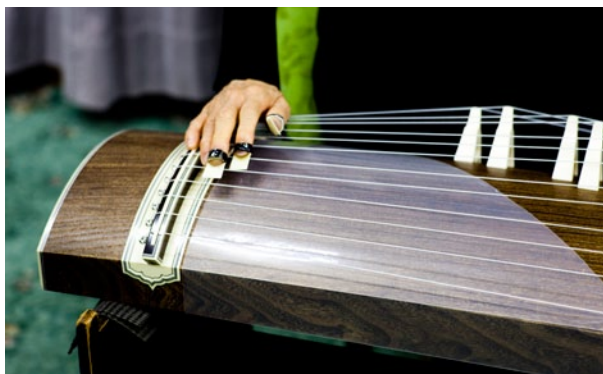
**深海**…色々考えるんです。傷つかないためにどうしたらいいか。ビニールレザー

で茶色とか作ってもいいました。これは簡単に外れます。この楽器は「天女」と言います。

**雅楽之二**…楽器への

こだわりはありますか。

**深海**…めっちゃくちゃあります！音色にこだわるので、爪一つ、楽器一つ、糸締一つ、全てにこだわってます。琴線



に触れるってよく言うじゃないですか、長く伸びて澄んだ音色を目指してます。楽器に

関しては、最初からある程度鳴るっていい楽器がいいですね。最初から鳴らない楽器は、いくら弾いても鳴らないですね。

**雅楽之一**…確かにそうですね。よくわかります。

**深海**…この一の柱も、いかにしたら良い音が出るかっていう研究から接地面を考えて、わざとあまり削らないものを作ってもらったんです。

**雅楽之二**…磯に接地している面積が多いんですね。

**深海**…そうすると鳴るように思います。

**雅楽之一**…お爪のこだわりはありますか。

**深海**…自分に合ったのを作った、通称「深海爪」というのがいいですね。

**雅楽之二**…深海爪！具体的に何が違うんでしょう。

**深海**…まずは大きさ。ちよつと大きいです。根元が厚い。カッターをほとんどしない。指と爪が一体化するような感じですよ。中はちよつと割ります。

**雅楽之一**…基本的な厚さはどうですか。

**深海**…ちよつと厚いですね。ここ(爪先)はスツとして、根元がしつかりして、力がスツと伝わります。

**雅楽之二**…十七弦の場合はどうですか。

**深海**…私、十七弦はあまり弾かないから(笑)うまくないから(笑)

**雅楽之二**…いえいえいえ(笑)



**深海**…十七弦の時は、お爪は変えます。もうちよつと厚いです。これはお箏用です。どの指も長さはいじりたい同じです。道雄先生はちよつとしか指に入れてなかつたですが、私もちよつとしか入らないです。

**雅楽之二**…私もです。深く入れません。

**深海**…私は大学院くらいからずつと教えてるわけですね。第一号に藝大に入ってくれた子から、だいたい毎年受験生を見てるんです。この子達が確実に弾くようになるには、この三本(の指)をいかにして強化するか、親指はしつかり弾くんですが人差し指や中指が弱かったりするんですね。それを強化するために基礎練習を考えました。それをまとめたのが『箏エチュード』なんです。そうやって毎年受験生に教えて合宿を行ってます。

**雅楽之二**…『箏エチュード』私も拝見しております。

**深海**…その合宿の時は、調弦法からやって、一分以内に十三本正確に早く。それから音の記憶、例えば私が四小節弾いてそれをすぐに弾かせる。それと歌の音階、パツと聞いてパツと歌える練習。そういう訓練をやってます。そういった基礎的なことをしつかりやることで身体の使い方とかできてきますね。

**雅楽之二**…演奏家の基礎は、スポーツ選手の基礎と近いものがあるのかもしれないね。

**深海**…そうですね。

**雅楽之二**…ところで、この深海爪というのは、例えば、反り指

のお弟子さんでも同じものを使つたらちよつと短くする

**深海**…そうですね。ただし、反り指だつたらちよつと短くするとか、その人に合わせて長さを変えます。

**雅楽之二**…現代曲でも古典でも基本的には同じ爪ですか。

**深海**…曲によって変えます。それは、古典だつたらまず楽器を決めます。自分の本番用の楽器を全部出して、鳴らしてみたらバランスでこの音が良いかつて決めます。あと現代曲とか宮城曲の早いのは回りやすい、シャシャテンの雑音が鳴ら



ないようにとか、音を弾いて判断します。

**雅楽之一**…それはお箏に限らずお三弦でもですか。

**深海**…三味線は幾つもないから本番用のはだいたい決まっています。古典でも宮城曲でもだいたい同じです。一番手、二番手、三番手があるくらいです。

**雅楽之一**…三弦は皮を貼っていることもありますから、楽器のコンディションが大きいんです。お箏ではコンディションというのはどうですか。

**深海**…お箏ってやきもち焼いたり、寝ちゃったりするんです。しばらく弾いてなくてしまっておくと寝ちゃうんで起こさないといけませんね。だから私は、鳴る楽器は少し寝かせたいて、本番の二、二週間、一ヶ月前になったら起きなさいって起こします。

**雅楽之一**…焼きもち！感情があるんですね。寝かせる意味があるんですか。

**深海**…私は使い方が激しいので消耗が激しいんです。いつも使っているとタッチも強いので音が開いちゃってすぐダメになっちゃうんです。だから、あ、良いなと思ったら大事に。

**雅楽之一**…温存するんですね。

**深海**…さつき言ったように、本番前に弾きこんで、ベストの状態を出す。

**雅楽之一**…素晴らしい！

**深海**…やきもちをどうして焼くかって言うと、例えばこの楽器を良いなと思って使っても、新しい楽器が欲しいと思うんです。私買いたい病なので(笑)買いたいと思って新しい楽器が来ると、すねちゃうの(笑)不思議なことに。

**雅楽之一**…何か無形の力が働くんですかね。

**深海**…三弦は持つて弾く楽器じゃないですか。だから緊張するの。

**雅楽之一**…楽器がですか、先生じゃなくて。

**深海**…私も緊張するけど、楽器がさらに緊張するの。だから大丈夫だよって。例えばサワリが付いてたのに付かなく



Illustration: morimoe

なつてきたり、それは緊張してんです。だから撫でてあげたり、本番終わったら楽器に声かけてあげたりしてあります。

**雅楽之一**…なるほど。先生、沢山の貴重なお話をありがとうございます。最後にありますが、邦楽人口が減っていると懸念される昨今にあつて、若い人にメッセーをいただけませんか。

**深海**…若い人と思うことは、縁あつてお箏を始めたら、とにかく続けて欲しい。継続は力じゃないですけど、絶対に続けることは大事だと思えます。そうすれば箏を通した人生つてのがまたあると思えます。それと、専門家を目指す人は、苦しいことも辛いことも全部箏の前に行けば、それに没頭すれば忘れることもできるし、箏が自分の人生を支えてくれると思います。だから何かあつたらやめてしまおうじゃなくて続けて欲しい。専門家を目指す人はそれが青春だと思えます。二つのことをずつとやってることは、私自身今までを振り返ってみて、練習が辛いか色々ありますけどそれが青春、良い青春の形として残っています。それが一生の宝になつていこうことを言いたいです。上手く言えないけど、ぜひぜひ青春をして欲しいと思えます。

**雅楽之一**…ありがとうございました。私も頑張ります。

**深海**…こちらこそ、どうもありがとうございました。

◎あとかぎ◎

野球など、スポーツの世界では、天才は監督に向かないと言う。努力無しに成功した人は、できない人の気持ちも方法も分からないからだなんて言う人もいるが、天才はたいていの場合、努力、継続の天才でもある。最初からできたレベルで満足できる人は天才ではない。普通の人があきらめるような状況でも、愚直に続けられる才能を持った人が天才と呼ばれる。

天才でなくても、人に教えるのは本当に難しい。持っている情報を全部与えれば良いというものでもない。自分で考えて、自分で失敗して、時間と労力をかけて獲得したものが、結局自分の身になる。人に教えられて、その時にできたとしても、かえつて自分のものにする事が難しいことだつてある。独学は遠回りに見えて、長い目で見れば独自の道を発見できる近道になることもある。

最近の若い人は褒められて育っている。褒められることには慣れているが、その分、否定されることに弱い印象がある。赤ん坊のころから一人で寝る西洋の子と、母親のそばで育つアジアの子を、同じように褒めて育てていいものか。本当に難しい問題だ。

グラフィックデザイナー (http://www.1938.jp) みやはらたかお

